

9:27 そこでパロは使いをやって、モーセとアロンを呼び寄せ、彼らに言った。「今度は、私は罪を犯した。主は正しいお方だ。私と私の民は悪者だ。」

9:28 主に祈ってくれ。神の雷と雹は、もうたくさんだ。私はおまえたちを行かせよう。おまえたちはもう、とどまってはならない。」

9:29 モーセは彼に言った。「私が町を出たら、すぐに主に向かって手を伸べ広げましょう。そうすれば雷はやみ、雹はもう降らなくなしましょう。この地が主のものであることをあなたが知るためです。」

9:30 しかし、あなたとあなたの家臣が、まだ、神である主を恐れていないことを、私は知っています。」

9:31 ・・ 亜麻と大麦は打ち倒された。大麦は穂を出し、亜麻はつぼみをつけていたからである。

9:32 しかし小麦とスペルト小麦は打ち倒されなかった。これらは実るのがおそいからである。・・

9:33 モーセはパロのところを去り、町を出て、主に向かって両手を伸べ広げた。すると、雷と雹はやみ、雨はもう地に降らなくなった。

9:34 パロは雨と雹と雷がやんだのを見たとき、またも罪を犯し、彼とその家臣たちは強情になった。

9:35 パロの心はかたくなになり、彼はイスラエル人を行かせなかった。主がモーセを通して言われたとおりである。

ひょうが甚大な被害をおよぼし、困り果てたパロはイスラエルの民が出てゆくのを認めました。しかし、モーセの言うとおりで、彼は本当に主を恐れて

はいないのです。すなわち、困難が過ぎ去るとまた強情になったのです。

このように人は何か困ったことがあると、神を求めます。また神から何か罰を受けたと感じると、そのときは神に従おうとします。しかし、神をこわがるだけで、神を敬い畏れているのであれば、問題が解決すると、また神を無視してしまうのです。

それはいずれにしても、自分中心、自分のためというのは変わらないからです。本当に神を敬いましょう。また、人を見るときには、その人の表面的な部分だけではなく、心から神を敬っているかどうかを見るようにしましょう。その上で、その人に必要な、その人の信仰にとって有益なことをもたらしてあげるようにしましょう。

愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、

